

県内129年ぶり

# 金環日食まで1カ月

次は374年後

家電カメラ量販店に設けられた日食観測用サンングラスなどの特設コーナー。宇都宮市駅前通り1丁目、ヨドバシカメラ宇都宮店



県内では129年ぶりとなる5月21日の「金環日食」まで1カ月。本県で次に観測できるのは374年後という一大天文イベントに、県民の関心が集まりつつある。カメラ店やホームセンターでは観測に必要な専用サンングラスの売り上げが好調。天体望遠鏡を扱うメーカーは撮影に使う望遠レンズが在庫切れとなった。各地の天文関係施設や公共施設も当日は観望会を企画する予定だ。  
(荒井克己)

## 特需にほくほく 観察企画も続々

天文関係施設など

観察グラス 望遠レンズ

宇都宮市のヨドバシカメラマルチメディア宇都宮は、1月から日食用サンングラスなどの特設コーナーを設置。800〜1500円で、月1000〜2000枚売れているという。

西川誠人店長代行は「3月ごろから右肩上がり」とほくほく顔。「2009年の皆既日食前は品切れとなった。観察する方は早め

金環日食 月が地球と太陽の間の軌道に入り、太陽がリング状に見える現象。国内では1987年に沖縄県で観測されて

の購入を」と呼び掛ける。

ホームセンターのカンセキも全店舗で計約2600枚を入荷し、約6割を販売。担当者は「日食後は売り上げが期待できず在庫を抱えたくない。大型連休で一気にさばきたい」と意気込む。

天体望遠鏡などの製造販売を行う壬生町のトミーテック。1年前から特需を見込んで準備を進めてきた。カメラ撮影にも使える望遠レンズを中心に工場は3月まで土日もフル稼働。在庫は既に完売という。

同社の売れ筋は7〜12万円のレンズ。注文は例年の1.20〜1.30%増という。中川

以来25年ぶり。国立天文台によると、宇都宮では午前6時20分ごろに日食が始まり、金環日食は同7時34分ごろから同38分ごろまでとなる。

昇オプトラマ室長は「今年売らなければいけない」となる。施設は事前予約が必要となる。

当日は各地で観望会が開催される。益子町天体観測施設「スペース250」では、北関東最大級という直径250cmの屈折望遠鏡で詳細に観測できる。

宇都宮市のわくわくグランディ科学ランドや大田原市ふれあいの丘天文館では、望遠鏡のほかピンホール投影機などを使った観察も予定。

宇都宮大や鹿沼市民文化センターなどでも観望会があり、多くの